

1年1組

 1年1組カフェオープンです！  
～冬限定 白玉パフェ～


## 大池に氷がはったよ！

「先生見て見て！」と興奮した様子で自然体験園から帰ってきたA君。手にはたくさん氷をもち、それをとても大切そうに抱きかかえていました。ぼくたちの大好きな自然体験園の大池の変身…。自然体験園で季節を感じながら遊び、学ぶ子どもたちだからこそ気付いたり、尊く思えたりする場面であったと思います。「冷蔵庫に入れておいて」と見つけた宝物を少しでも長く自分の手元に置いておきたい気持ちの表れであると感じました。

朝は、息が白く見えたり、お月見ステージが凍っていたりして「冬になる」「冬になった」と話す子どもたちの姿が見られます。



そんな冬の訪れを感じ始めた子どもたちとクリスマスを楽しむことを計画しました。2週間後に迫るクリスマスパーティーに向け、みんなでどんなことをしたいか話し合いました。「教室をクリスマスでいっぱいになりたい」そんな言葉を伝え合う子どもたち。まずは、図工の時間にクリスマスの飾りづくりをしました。

色画用紙やおりがみ、フェルト、紙皿、スパンコール、木製スティックなど目の前に広がるたくさんの材料を組み合わせながら、思い思いの飾りを作っていました。友だちの様子を見て、「すごい！その作り方教えてよ」などと、自然と互いに教え合ったり、共同制作が始まったりしていました。いろいろな種類の飾りがたくさんできて、教室の中がとても賑やかな雰囲気になりました。

季節を食と共に味わうことにも取り組む1組の子どもたち。どんなメニューがいいか考え合う中で、Bさんが提案してくれた『白玉パフェ』を作ることになりました。まずは、白玉づくりから挑戦してい

た子どもたち。図書館の本やタブレットなどを使って、白玉の作り方を調べました。家庭科室を借りて、実際に白玉を作ってみました。白玉粉に水を入れて、捏ねていく過程で分粒状だった白玉粉がもちもちの状態に変化していくことが、子どもたちにとって、不思議に思うことがたくさん含まれていたようです。「どのくらいこねたら…」「どのくらい水を入れたら…」、どうしたらわたしの思い描くもちもち感触に生地が変身していくのか、自然と試していく様子が伺えました。手のひらで大切そうに丸められたかわいらしい白玉たち



を、お湯の中に入れていきました。Bさんが調べた中に、「白玉が浮くまで待つのが大事」というポイントがありました。鍋の中の白玉をじっくりと見つめる子どもたち。「あっ！浮いた！」網じゃくしを使って素早くすくい上げ、冷たい水へと入れていました。紙粘土みたいだった白玉が少し黄色がかったぴかぴかした状態に変化する様子を見て、「お月様みたい」と言う子どもたちもいました。出来上がった白玉をそのまま食べたり、きな粉やあんこ、チョコソース、みたらしなどをかけて食べたりしてみました。イメージしていた食感との違いを感じる子どもたちもいて、「ねえ、もう1回作ろうよ」と思い描く感触に近づきたいという願いから、白玉づくりを続けることにしました。



2度目の白玉づくりで、納得のいく白玉を作ることができ、クリスマスパーティー当日は、いよいよ白玉パフェに挑戦。手際よく白玉をゆで上げる子どもたち。冷凍庫で冷やしておいたカップを出し、冷たいうちにと、アイスクリームやフレーク、生クリームなどを盛り付けていきました。もちろん、1組カフェ自慢の白玉もたくさん入っていました。出来上がったパフェをみんなでいただきました。「おいしい！」の声で教室がいっぱいになりました。「白玉がちょうどいい固さになった」「きなこと黒蜜といい感じにいっしょになってるよ」などと出来映えを友だち同士で確かめ合う様子も伺えました。「先生たちにも食べてもらおうよ」1組カフェのデリバリーを試してみました。食べて下さった先生方からは、「白玉と生クリームがあうね。とてもおいしいよ」と感想をもらうことができ、とてもうれしそうな子どもたちでした。自分が作り出したものを食べてくれる相手がいることの喜びを実感する時間となりました。もらった感想をノートに書き記す子どもたちもいて、カフェの活動を通して、1組の子どもたちに様々な力がついてきていることを感じました。



1組カフェを自分たちだけではなく、友だちや先生、家族にも開いていきたい、そんな気持ちを今まで以上に強くもつ1組のクリスマスパーティーとなりました。

